



# ほんものを たべよう

Alter Weekly Order Catalogue

2017.8月2週号

提出日				
8/	火	水	木	金
	1	2	3	4
配達日				
8/	火	水	木	金
	8	9	10	11
翌々週分配達日				
8/	火	水	木	金
	15	16	17	18

### オルターの提案

本当に安全な食べものを手渡すために

- 「だれが・どこで・どのようにつくったか」の情報を日本一公開します。
- 「国産」「無農薬」にこだわり、日本の伝統食を守ります。
- 原料段階・飼育段階からポストハーベスト農薬、遺伝子組み換え、放射能汚染、トランス脂肪酸、食品添加物などを徹底的に追放します。
- プラスチック容器・レトルト食品を追放します。

## 野菜 VEGETABLES

# 有機農業 発祥の地、 山都町からの 有機野菜

阿蘇山麓の冷涼な環境が  
おいしい野菜を育てます。

## (株)肥後やまと会(熊本県) 生産者グループ やまとベジ

文責 西川 榮郎(NPO 安全な食べ物のネットワーク オルター 代表)



原田 幸二代表(写真前列右から3番目)



### 農薬・化学肥料を使いません

日本の有機農業運動の発祥地のひとつ、熊本県の山都町にある(株)肥後やまと会、原田 幸二代表は、環境に優しい野菜作りを行う「生産者グループ やまとベジ」の40名の農産物を出荷する活動を行っています。

この40名のうち、農薬不使用、化学肥料不使用、肥料など放射能1Bq/kg以下の管理水準などでオルターへ出荷可能な生産者、原田 幸二代表ら15名の生産者に、オルターヘタス、サニーレタス、リーフレタス、ピーマン、こどもピーマン、ジャガイモ、ニンジン、レンコン、カブ、オクラ、ニンニク、ミニパプリカ、ズッキーニ、肥後むらさき(茄子)などを出荷していただいています。

### 阿蘇が育てる野菜

山都町は熊本県の東部(九州の真ん中)に位置し、阿蘇の外輪山にある標高300~900mの、冷涼な気候の夏秋作物の生産が盛んな地域で、昼夜の寒暖差が大きくおいしい野菜ができます。

### 若い農業者を育てるのがテーマ

肥後やまと会は2013年に、有機農業の普及と後継者の育成を進めていくことを目的に結成されました。ベテラン農家の知恵と知識を受け継ぎながら、生産者の半数以上を占める40代以下の若手ががんばっています。

日本の中山間地の農村は限界集落化・高齢化が進み、後継者も少なくなっています。山都町もその例外ではなく、将来、村の維持も難しくなるのではと危惧しています。野菜を作る人がいなくなれば、国産の

野菜を食べることも難しくなります。消費者の理解を得て、若い農業者が育ち、有機農業の村を守っていきたく活動しています。若い農業者を一人でも多く育てることが肥後やまと会の一番重要なテーマです。

### 有機農業の里

肥後やまと会の原田 幸二代表は、農家に生まれました。地元の高校を卒業して、2年間県外へ就職していましたが、家の跡を継いでいた兄が、体が小さく体力がなく、農業をやめてしまったため、20歳で実家に帰り、就農することになりました。当時5名程度のグループだった御岳会に入会して、農薬を使わない栽培を学んだのが有機農業との出会いでした。現在も御岳会やJA有機農業研究会に所属しています。

## 肥後やまと会の 野菜 ☆ ~ ☆☆☆

### ●生産者

原田 幸二、蒲池 達哉、出口 信武、中村 司郎、原田 一道、八田 祥吾、矢仁田 秀典、田上 貴士、原田 恒祐、甲斐 長雄、大塚 寿一、西山 幸二、坂本 光陽、田上 明、太田黒 公英

### ●防除

農薬の使用ありません

### ●肥料

化学肥料の使用ありません。

有機物(ミネラル、微生物)のみによる肥培管理、緑肥

- ・鶏糞堆肥(熊本県)  ND
- ・馬糞堆肥(熊本県)  ND
- ・牛糞堆肥(熊本県)  ND
- ・豚糞堆肥(熊本県)  ND
- ・リン酸グアノ(インドネシア)
- ・菜種油粕(オーストラリア)
- ・竹堆肥(福岡県)
- ・バランス684(宮崎県)  ND

- ・籾殻(熊本県)
- ・米糠(熊本県)
- ・古代天然苦土
- ・カキ殻(広島県)
- ・アイアンパワー
- ・マンガンパワー
- ・ホウ砂
- ・えひめAI(微生物資材)